

事業番号	14 03 01	事業改善シート (26年度実施事業分) <input type="checkbox"/> 予算要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input type="checkbox"/> 補正予算案 <input checked="" type="checkbox"/> 点検			
事業名	日本語が不自由な生徒のための高校生活支援事業費			担当課	部局 教育委員会事務局 課・室 高校教育課 E-mail koko@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画	プロジェクト	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 5 すべての子どもの学びを保障する支援		実施期間	H17 ~

1 事業の概要

目指す姿	生活支援相談員を中心とした高校生活支援体制づくりにより、各高校に在籍する日本語が不自由な外国籍生徒及び帰国生徒が、日本語(特に読み書き)や日本独特の風習・習慣の壁をスムーズに乗り越え、併せて、高校卒業後において、日本の市民社会の一員として円滑に人間関係を構築して社会的、経済的自立ができるちからを身につける。	
現状(予算編成時)	<ul style="list-style-type: none"> 県立高等学校に在籍する外国籍生徒の数は、平成22年度に300人を超え、平成26年度には321人となっている。 外国籍生徒の増加に伴い、日本語の理解や使用、授業や日常生活に支障のある要支援生徒数も相対的に増えている。同時に、当該生徒の家族とのコミュニケーションにも支障を生じている場合もあり、生活支援相談員の活動の機会は増加している。 	
県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他)	【左記の説明、根拠法令等】 県立高等学校に在籍する要支援生徒への修学支援として設置者が行う事業
	県民との協働による実施: 実施は困難	

成果目標・事業内容	① 成果目標(H26)				
	各校の現状と要望を把握しながら支援員の配置を行い、各校に在籍する日本語が不自由な外国籍生徒及び帰国生徒が安心して高校生活を送ることができるようにする。				
	② 事業内容 (単位:千円)				
	項目	実施方法	H26事業実績	H26 (当初)	H26 (決算)
日本語が不自由な生徒のための高校生活支援事業	直接	相談員配置校 19校 相談員配置数 21名 相談等従事時間数 992時間	3,059	2,996	3,075
		合計	3,059	2,996	3,075

事業コスト	区分(単位:千円)	24年度	25年度	26年度	27年度
	前年度繰越				
	当初予算	2,905	3,054	3,059	3,075
	補正予算				
	合計(A)	2,905	3,054	3,059	3,075
	一般財源	2,905	3,054	3,059	3,075
	県債				
	国庫支出金				
	その他	0	0	0	0
	決算額(B)	2,898	2,801	2,996	
概算人件費					
職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50	
概算人件費(C)	4,129	4,129	4,129	4,129	
概算事業費(B(A)+C)	7,027	6,930	7,125	7,204	

成果目標の達成状況					
項目	H25末(実績)	H26			H27 目標
		目標	成果	達成状況	
対象生徒のアンケート満足度(助かっている。)回答率	98%	90%	100%	達成	90%

目標に対する成果の状況	生活支援相談員を19校に配置し、帰国生徒及び外国籍生徒が、高等学校における授業及び日常生活において速やかに対応できるように、言語、学習、日常生活について支援を行った。 対象生徒アンケート調査の満足度の項目で、すべての生徒から「大変助かっている」または「助かっている」との回答を得た。 ※事業に対する満足度状況を正しく成果に反映するため、目標の修正を行いました。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 平成27年度も、高等学校における授業及び日常生活において速やかに対応できるように、言語、学習、日常生活について支援をおこなう。 集団学習による要支援生徒の日本語学習を行う。また、必要に応じて団体への訪問、情報交換及び研修会への参加も可能とする。
-----------------	--